

実践のまとめ（第6学年 外国語科）

新発田市立猿橋小学校 教諭 井口 尊紀

1 研究テーマ

コミュニケーションを図る楽しさを感じ、主体的に「話す」ことのできる児童の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成すること」を目標としている。また、「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」（2017年 文部科学省）には、言語活動とは「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動である、と書かれており、小学校から高校まで継続することの重要性が示されている。

6月に独自に行った学習アンケートによると、「好きな、または得意な分野はどれですか」という質問に対し、「話すこと〔発表〕」の回答が最も低かった。一方、「話すこと〔やり取り〕」の回答率は概ね高く、実際、意欲的に活動に臨んでいる様子が見受けられる。「話すこと〔発表〕」は、「話すこと〔やり取り〕」の延長線上にあると考える。児童同士が活発に英語でやりとりする体験を積んでいくことで、一方通行の伝達にとどまらず、聞き手をより意識した発表を、自信をもって行うことができると考え、「話すこと」の充実を目指し授業づくりを推進していきたい。

仲間との対話を通して、コミュニケーションを図る楽しさを味わい、多様な「気付き・考え・学び」に触れ、より主体的に言語活動に取り組む姿勢を育成したいと考える。

(2) 研究テーマに迫るために

① CAN-DOリストの作成・共有

- ・単元で到達すべき目標を定め、逆向きに設計したCAN-DOリストを児童と共有し、活動のゴールや評価の観点を明確にする。
- ・各言語活動に必要な知識・技能の目標を確認し、定着を目指す。

② コミュニケーション活動の設定とその工夫

- ・ペアトークでは、教師やクラスメートと交流を図るとともに受け答えの練習をする。また、自分の考えや意見を伝える経験を積み重ね、自信をもたせる。
- ・グループトークでは、やりとりや発表の練習をし、フィードバックを得る。
- ・クラストークでは、より多くのクラスメートとコミュニケーションを図り、多様な意見に触れさせる。また、肯定的、受容的な雰囲気を醸成する。

③ ICTの活用

- ・タブレットを活用し、活動の録画、録音、記録、手本や資料の提示を行う。
- ・以降の学習につながるように、授業の振り返りをフィードバックする。

(3) 研究テーマに関わる評価

2 (1)で述べた独自の学習アンケートを再度行い、「話すこと [やりとり／発表]」の回答率の推移、および「話すこと [やり取り]」の充実が「話すこと [発表]」への自信や内容の充実につながったか、回答の結果や理由を分析し、手立ての有効性の評価を行う。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

Lesson 5 We had the sports day in October. (Crown Jr.6 三省堂)

(2) 単元（題材）の目標

- ① 「思い出アルバム」を作ることとおし、6年生の思い出について質問したり答えたりして、会話を続けることができる力を養う。
- ② 過去の出来事を説明したり感想を伝える語句・表現を、その意味や働きとともに理解し、身近な出来事についてモデルを参考にして書くことができる。

(3) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと 「やり取り」	<知識> - 過去の出来事を説明したり感想を伝える語句や表現について意味やその働きとともに理解している。 <技能> - 過去の出来事やその感想など、適切な語句を用いて伝え合う技能を身に付けている。	小学校の思い出を、先生や友だちに、よく知ってもらうために、最も思い出に残っている行事を、自分の考えや気持ちを含めて、応答を交えながら、相手が理解しやすい内容や読み方で伝え合っている。	小学校の思い出を、先生や友だちよく知ってもらうために、最も思い出に残っている行事を、自分の考えや気持ちを含めて、応答を交えながら、相手が理解しやすい内容や読み方で伝え合おうとしている。
書くこと	<知識> - 過去の出来事を説明したり感想を伝える語句や表現について意味やその働きとともに理解している。 <技能> - 過去の出来事やその感想など、モデルを参考に適切な語句や表現を用いて書く技能を身に付けている。	小学校の思い出をよく知ってもらうために、最も思い出に残っている行事やその感想を読み手に伝わるよう意識して書いている。	小学校の思い出をよく知ってもらうために、最も思い出に残っている行事やその感想を読み手に伝わるよう意識して書こうとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全7時間、本時6／7時間）

次	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1	学校行事がいつあったかを伝える。	今までどのような行事があったか聞き取ったり、言いながら小学校6年間の学校行事のカレンダーを作ったりする。	本次では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
2	自分のことをもっと知ってもらうために、小学校で一番の思い出の行事を伝え合う。	友達が選んだいちばんの思い出の行事をたずねて当てたり、自分の小学校でのいちばんの思い出の行事を伝え合ったりする。	
3	修学旅行や校外学習の思い出を伝える。	思い出の学校行事について会話を聞き取ったり、自分が校外学習や修学旅行などで行った場所、したことを伝え合ったりする。	

4	自分のことをもっと知ってもらうために、思い出の行事でしたことを伝え合う。	行ったことや食べたことなどの言い方に慣れ、自分が思い出の行事で行った場所やしたことを友達と伝え合う。	
5	小学校で楽しんだことを伝える。	小学校の思い出で楽しんだことを伝え合う会話を聞き取ったり、簡潔な文でまとめたりする。	
6 (本時)	自分のことをもっと知ってもらうために、小学校の思い出と感想を伝え合う。	自分の小学校の思い出を友達と感想も交えて伝え合う。	思・判・表 他者に配慮しながら簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。【行動観察・ワークシート、振り返り】
7	思い出アルバムを作るために、6年生の思い出を伝え合う。	小学校の思い出をひとつ選んで、行ったところ、したこと、楽しんだことなどを友達と伝え合う。また、伝えたことをあらためて書き出して思い出アルバムを作る。	知・技、思・判・表、主体的 他者に配慮しながら簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝え合っている。【行動観察・ワークシート、振り返り】

4 単元（題材）と児童

(1) 単元について

Lesson 3 では、夏休みの思い出を中心に過去の出来事について伝える表現、Lesson 4 では、様子や状態を伝える表現を学んできた。本単元 Lesson 5 では、これまで学習してきた内容を織り交ぜながら、6年生の思い出とその様子や感想などを伝える力を育成する。ペアやグループで話し合うなど様々なコミュニケーションの形式を設定し、それらの表現に十分に慣れ親しませ、まとまりのある簡潔な表現で思い出を伝え合う。

(2) 児童の実態

男女ともに明るい雰囲気をもつ児童が多く、落ち着いた態度で協力して学習活動に参加することができる。

独自の学習アンケートによると、多くの児童が学習に意欲的に取り組んでいる様子がうかがえた。知識・技能面に関しては、理解力に富み英語を得意とする児童がいる一方、学習内容の理解に時間を要する児童が混在している。

全体としては、「話すこと〔発表〕」を課題とする回答が多かった。理由としては、「難しい単語があって読みにくい」「発音に自信がない」「緊張してしまう。恥ずかしい」などが見受けられた。

「話すこと〔やり取り〕」に関しては、活動にあまり抵抗を感じることなく参加できているので、やりとりを中心とした活動を行いながら、少しずつ音声や応答、語彙の課題をクリアしていき、話すことに対して自信をもたせたい。徐々にまとまりのある英語を話す活動につなげていき、自分の考えや意見を発表する楽しさを味わわせたい。

5 本時の展開（令和6年11月26日実施）

(1) ねらい

- ・過去の出来事について、感想を交えて伝え合う力を養う。（思考・判断・表現）

(2) 展開の構想

- ① 児童が主体的に言語活動に取り組めるように、発想を得やすい学校生活など身近な話題について話す課題を設定する。

- ② クラスメイトとのやりとりをローテーションを組んで行い、より多くの人と活動を行う。
- ③ 児童同士の対話の場面や教師による中間指導など、児童自身の気付きや考えを促し、学びを実感できる場を設ける。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入	5 ○スモールトーク ・週末の出来事について教師の話聞く。 ・ペアでやりとりをする。	◎スモールトークを通して、基本的な過去の出来事を伝える語句を復習する。	○机間巡視を行い、必要に応じて問いかけやアドバイスをを行う。
展開	4 ○教師の話聞き、内容を推測する。	◎ALTが、小学校の時の思い出を話し、児童に一番の思い出を尋ねる。	
	1	課題 小学校のいちばんの思い出を感想を交えて、友だちや先生と伝え合おう。	
	4 ○前時に作成した文の確認。	◎前時まで作成した文の内容が、理解しやすいかどうか、ペアで確認させる。	思・判・表 自分にも相手にも理解しやすい語句や表現を用いて話している。
	6 ○グループで思い出について伝え合う。	◎グループを組み、やりとりをさせる。	【行動観察、ワークシート】
	4 ○新しいグループで、中間指導を生かして、思い出について伝え合う。	◎やりとりの中で生まれた気づきや質問を共有し、中間指導を入れる。	○中間指導を行い、気を付きたいポイントやよくできている例を紹介、共有する。（語彙、工夫、応答、話し方など）
	4 ○さらに新しいグループを組み、それまでの学びを生かしながら、思い出について伝え合う。	◎さらに新しいグループを組み、やりとりをさせる。	思・判・表 より相手意識をもって、話し方や読み方に注意しながら伝えている。
	3 ○代表児童は、思い出を伝える。	◎代表児童を数名選び、ALTとやりとりをさせる。	【行動観察・振り返り】
まとめ	5 ○振り返りシートを記入する。	◎児童のふり返りをタブレットで共有する。 ・思い出を、感想をそえて言えた。 ・相手の話の内容が理解できた。 ・会話や話すことに慣れてきた。 ・よりよい伝え方が分かった。	主 クラスメイトとの思い出のやりとりを振り返り、今後の発表活動に生かそうとしている。【振り返り】

(4) 評価

- ・思い出について感想を交えながらまとまりのある文で伝えている。【行動観察・振り返り】
- ・聞き手への伝わりやすさを意識して話すことができた。【行動観察・振り返り】

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

冒頭のスモールトークでは、週末の出来事について伝え合う活動をグループで行った。多くの児童が、「行った場所・そこでしたこと・感想」を3文以上のまとまりのある英語で発話できるようになった。質問やあいづちを入れるなど、相手を意識したやりとりを行う姿が見受けられた。時間の都合上割愛したが、フィードバックを行い、取組に関して称賛したり、抽出児童と教師のモデルを見せたりしながら、途中でもクラス全体で課題や目標を共有した方が良かったと思われる。そうすることで児童のモチベーションを高めて次の活動につなげることができたと考えられる。

小学校の一番の思い出を伝え合う場面では、ペアやグループを組み、いつのどのような行事が思い出に残っているか伝え合う活動を行った。伝え合う活動を重ねる中で、上手く伝わっていることの自覚や改善点の気づきを促すことができた。中間指導を挟みながら行ったが、振り返りの観点が曖昧で、児童から上手く気づきを拾い上げることができず、教師主導の指導が多くなってしまった。児童に振り返る時間や観点などを与えると有効であった。

最後に代表児童を数人抽出し、学びを共有する形をとった。ペアやグループ活動など伝え合う場面を多く設定したことで、徐々にスムーズにやりとりを行うことができるようになった。やりとりを充実させることが発表への自信につながるという当初の目的を、クラス全体で再確認することができた。

(2) 研究テーマに関わる評価

表1 授業で行った振り返り（選択回答部分、回答者数31名）

質問項目	◎	○	△	×
①先生や友だちに小学校の思い出について、まとまりのある文（出来事や感想など）で伝えることができた。	22人 71%	9人 29%	0人 0%	0人 0%
②今日の授業のペアやグループ学習を重ねる中で、聞いている人への伝わりやすさを意識して話すことができた。	16人 52%	14人 45%	1人 3%	0人 0%
③思い出を伝え合う活動の中で、相手の話にあいづちを打ったり、反応を示したりできた。	18人 58%	9人 29%	4人 13%	0人 0%
④先生や友だちと英語でやりとりを繰り返したことは、今後のスピーチの自信につながったり内容の充実に関わったりすると思う。	25人 81%	6人 19%	0人 0%	0人 0%

表2 授業で行った振り返り（記述部分、一部抜粋）

児童1	聞く相手に対して、分かりやすいような文を作れたと思います。
児童2	伝わりやすいようにゆっくり発表しました。
児童3	あいづちをすると友だちが、安心して話せるなと思いました。
児童4	みんながリアクションしてくれたおかげで、楽しく言えたので良かったです。
児童5	緊張していたけど、どんどんやっていく内に自信ができました。
児童6	やっていく度に、はじめより少しずつ英語が読めるようになったり伝えたりできるようになったので良かったです。次は、もっとハキハキと友達や先生に伝えるように頑張って練習したいです。
児童7	最初は緊張していたけど、みんながリアクションをしてくれたりして、後半は、ずっと笑顔で授業を受けられて良かったです。

表3 授業者による学期末学習アンケート（回答者数34人、複数回答可）

得意な活動、または、好きな活動 は、どれですか。 ※網掛け部分は、1学期と比べ肯定的 回答の増加が見られた部分	活動	聞く	話すこと		読む	書く
			やりとり	発表		
	1学期	13人	12人	2人	6人	12人
	2学期	21人	14人	4人	12人	12人

表1、表2の結果から、相手意識をもって活動できるようになってきたことや「話すこと〔やりとり〕」の活動を継続的、系統的に充実させてきたことが、徐々に「話すこと〔発表〕」への不安を取り除き、自信につながりそうだということが見て取れた。

学期末学習アンケート（表3）では、「やりとり」「発表」に対する肯定的回答はわずかではあるが増加した。しかしながら、「発表」を不得手と感じる児童からは、「人前に立つと緊張する」という旨の記述回答が最も多く、英語の力以上に性格的な要因が関わっているようである。児童がそれを乗り越えて、伝えたい、話したいと思う課題の設定や練習にさらなる工夫が求められる。

一方、「聞く」、「読む」活動に対しての肯定的な評価が大きく増加した。教師や友だちの話に耳を傾けたり、友だちの書いた英語や教材の英語などから内容をつかみ取ろうとしたりする態度が育ったと思われる。積極的に傾聴し、もっと知ろうとする姿勢が生じることは、「やりとり」につながる大切な要素と捉え、今後の授業づくりのヒントとした。

(3) 今後の課題

① 活動の目的や目標の明確化

2学期の学習の流れや活動を簡潔にまとめたものを児童には配付し、現在自分たちが、どの学習段階にいるのかを意識させることができた。しかし、何ができて、何ができていないか、どこまで到達しているのかの振り返りが不明瞭であった。CAN-DOリストやルーブリックなどの活用について見直し、学びを実感できる場を作りたい。

② 学習課題に正対した活動の設定

本研究では、「話す〔やりとり〕」活動の充実を「話す〔発表〕」活動へつなげる目的で行ったが、肝心のやりとりの部分に対する積み上げが不十分であったと思われる。そのため、学習アンケートの比較では、「やりとり」や「発表」の肯定的評価も微増にとどまった。授業直後の振り返りでは、児童は「やりとり」の充実が「発表」の充実につながると認識しているので、あいづちや簡単な応答だけでなく、相手のことをよく知るための「やりとり」の場面の設定や、それに必要な尋ね方や答え方の練習を設定し、課題解決に結びつけられるようにしたい。

③ ICTの活用

現段階では、ICTを用いた資料やワークシートの提示は概ね奏功している。今後も、録画や録音機能、アンケート機能などを効果的に利用し、児童の学びの足跡を残し、学習の定着を図っていきたい。

<参考文献>

- 「中学校学習指導要領解説 外国語偏」文部科学省(2017.7)
- 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」(2008.6)